

明治～昭和30年代

織布産業は明治以降になると、水車紡績（ガラ紡）が始まり、さらに機械紡績へと切り替わり、生産性の向上に伴い大幅に発展していきました。

その後、知多鉄道（現在の名鉄河和線）が敷かれると、織布産業はさらに発展し、昭和12年ごろには阿久比は県内有数の織物のまちとなりました。

戦後の苦しい生活の中にも、人々のまちづくりへの熱い心は失われておらず、昭和28年1月1日に町制が施行されました。



1890年(明治23年)

第1回衆議院議員総選挙に
端山忠左衛門氏が当選

詳細は37ページ



1894年(明治27年)

日清戦争始まる



1868年(明治元年)

1878年(明治11年)

阿久比谷16か村が合併して
阿久比村となりました。

端山忠左衛門肖像画
(植公民館蔵)

1945年(昭和20年)

太平洋戦争終わる(8月15日終戦記念日)

三河地震発生

1939年(昭和14年)

第二次世界大戦始まる

1941年(昭和16年)

太平洋戦争始まる

1947年(昭和22年)

阿久比中学校創設

阿久比中学校が現丸山公園
周辺に創設されました。

詳細は100ページ



旧阿久比中学校校舎

1944年(昭和19年)

東南海地震の発生



都築紡績植大工場

1948年(昭和23年)

都築紡績の発展

都築紡績は、明治41年、都築吉太郎によつて「マルツ織布」として始められました。その後、良平が家業を継ぎ、昭和23年に、社名を「都築紡績」に改名して本格的な紡績工場となりました。

詳細は37・96ページ



1953年(昭和28年)

町制の施行

昭和28年1月1日に町制を施行し、
2月18日には、町を挙げての祝賀行事を開催しました。



町制施行祝賀会

1897年ごろから(明治30年代)

織布産業

明治30年代に入り、力織機の導入が進み生産性が大幅に向上了しました。

詳細は73ページ



1904年(明治37年)

日露戦争始まる

1931年(昭和6年)

知多鉄道の敷設

知多鉄道(現在の名鉄河和線)が敷かれ、白沢・坂部・椋岡(平成18年廃止)・植大の4つの駅が造られると、名古屋や半田方面への通勤に利用する人が増え、ほかのまちからも阿久比へ働きに来るようになりました。

詳細は75ページ



椋岡駅停車風景(昭和16年)

織布工場

1907年(明治40年)

第一尋常小学校へ

小学校令改正により、阿久比第一、第二、第三尋常小学校となりました。

詳細は76ページ



第一尋常小学校(現在の東部小学校)

1912年(大正元年)

1926年(昭和元年)

1920年(大正4年)

第四尋常小学校創設



第四尋常小学校(現在の南部小学校)

1914年(大正3年)

第一次世界大戦始まる

1914年(大正3年)

阿久比に送電開始

1959年(昭和34年)

伊勢湾台風襲来

伊勢湾台風が昭和34年9月26日に日本列島へ上陸し、町内も甚大な被害を受けました。

詳細は91ページ



伊勢湾台風の被害

1961年(昭和36年)

愛知用水の完成

昭和36年9月、愛知用水が完成し、木曽川の水を知多半島の農業用水、工業用水、上水道へと供給し始めました。このことにより知多半島の農業が一変しました。

詳細は97ページ



愛知用水の用水路

1963年(昭和38年)

阿久比に都市ガス供給開始

昭和38年11月に白沢へ、翌昭和39年6月に植大へ。

1964年(昭和39年)

阿久比団地の完成